

自ら情報を収集・活用し主体的に活動する児童を育てる授業づくり

- 地域教材のWeb提供型コンテンツの作成と活用を通して -

川副町立南川副小学校 教諭 江頭 則男

要 旨

本研究は、社会科の地域学習において主体的な調べ学習を促すWeb提供型コンテンツの作成と活用方法を探ることを目指したものである。児童が主体的に活動できるようにするためのWeb提供型コンテンツの作成に当たっては、「調べ学習の仕方の説明」「興味・関心のもたせ方」「調べるときの階層化」「サイトの利用に際した教師への手引きの整備」の4つの視点に配慮した。このWeb提供型コンテンツ「わたしたちの佐賀」を活用して授業実践を行ったところ、単元「地域の発展に尽くした先人」では、導入期や課題を追求する段階において、課題に対する興味・関心を持続させ、単元を通して活動意欲を継続させることができた。また、主体的に調べ学習する児童の姿が見られた。

< キーワード > Web提供型コンテンツ 主体的な学習 地域教材 小学校社会科

1 主題設定の理由

指導要領の改訂の趣旨によると、社会科では「社会の変化に自ら対応する能力や態度を育成する観点から、基礎的・基本的な内容に厳選し、学び方や調べ方の学習、作業的、体験的な学習や問題解決的な学習など児童生徒の主体的な学習を一層重視する」⁽¹⁾とある。4年生における社会科では、地域教材を扱っている。「じまんでできる先人をさがそう」の単元の資料として、副読本『わたしたちの佐賀県』には、佐賀県の七賢人、成富兵庫茂安、下村湖人などが提示されている。じまんでできる先人を学習させる場合、資料等が少ないので、児童に興味・関心を喚起することが難しく、発展的に取り扱うのも困難な状況にある。つまり、先人の学習では、情報が少ないため、教師主導型になりがちで、主体的に学習を促すことが難しい。このことから、児童が興味をもって主体的に調べることができるような情報を提供する環境を整えることができれば、このような地域教材の学習が容易になると考える。

Web提供型コンテンツは、インターネットに接続できる環境にある場合、いつでも、どこでも利用できるため、教師自身の教材研究の効率化を図ることができる。また、児童においても、情報を収集する場合、多様なメディアを利用できるため、調べ学習を進める際に、興味・関心を喚起しやすく、より個に応じた主体的な活動ができる場を保障する環境を作り出すことが期待できる。そこで、地域教材のWeb提供型コンテンツの作成と活用を通して、進んで情報を収集・活用し主体的に活動する児童を育てることを目指して本主題を設定した。

2 研究の目標

自ら情報を収集・活用し、主体的に調べ活動が行えるような情報を提供する環境の整え方とその活用の在り方を探る。

3 研究の仮説

学習プロセスの流れに沿ったWeb提供型コンテンツを作成し活用すれば、興味・関心をもって、主体的に調べ活動を行い、進んで情報を収集・活用する力が身に付くであろう。

4 研究の内容と方法

単元「地域の発展に尽くした先人」について、文献や資料を基に理論研究を行い、Web提供型コンテンツを活用した単元計画を作成する。

先人のエピソードやクイズなどを入れ、児童が、人物を身近に感じられることができるようなWeb提供型コンテンツの作成の在り方を探る。

検証授業を行い、Web提供型コンテンツの有用性を検証し、考察する。

研究の成果と課題をまとめる。

5 研究の実際（実践化への手立て）

(1) 文献による理論研究

学習指導要領では、コンピュータを自らの道具として活用できるようにするため「調べ学習」や自己表現などに、児童生徒自らが積極的に活用できるような学習場面の設定を求めている。

永野和男は、道具としてのコンピュータについて次のように述べている。⁽²⁾

私たちが日常的に指導している算数や国語あるいは社会や理科の学習活動は子どもたちにとって情報処理活動である。すなわち、子どもは、学習課題を通じて情報を収集・保存・加工・伝達することを求められている。したがって、このような学習活動に自然な形でコンピュータを活用できれば、コンピュータは、子どもにとって自らの情報処理活動を支援する道具になる。

また、子どもの能力開発のためのソフトウェア中では、「情報教育のための学習ソフトは、子どもの頭の中で起こる学習プロセスのことをよく配慮し、開発されなければならない」⁽²⁾と述べている。

上記のことから、学習プロセスを大切にしたいWeb提供型コンテンツの作成を目指していく必要がある。

(2) Web提供型コンテンツの作成と指導法の研究

ア 地域の発展に尽くした先人の取扱い

本校の教師へのアンケートによると、地域の発展に尽くした先人について指導しにくいと答えた人が95%であった。その理由には、地域の実態とうまく合致しないことや見学等ができにくく、読み物が中心となり、授業を活性化させることが困難であるとの回答が多かった。また、資料等の不足なども挙げられている。どのような教材があれば指導しやすくなるかについては、映像や画像、Web教材、手引き書等が多かった。このことから、様々なマルチメディアを利用したコンテンツの作成が望まれていることが分かった。

イ 学習プロセスを大切にしたいWeb提供型コンテンツの作成

Web提供型コンテンツの作成に当たり、図1に示すように「つかむ→調べる→まとめる→広げる」という学習プロセスを考えた。「広げる」段階は、学習の仕方の定着を図るため「つかむ→調べる→まとめる」

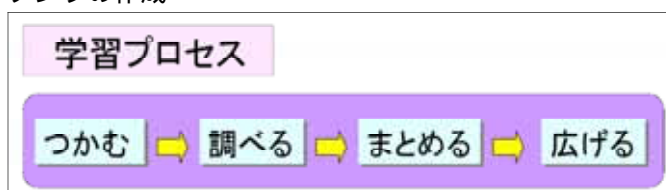


図1 学習プロセス

段階を繰り返すようにした。作成の視点としては、次の4点を特に重視した。

- (ア) 調べ学習の仕方の説明
- (イ) 興味・関心のもたせ方
- (ウ) 調べるときの階層化
- (エ) サイトの利用に際した教師への手引きの整備

(ア) 調べ学習の仕方の説明

主体的な調べ学習を促すために、まず、社会科の学習の仕

調べたいことを決めよう！
調べる方法を決めよう！
聞きとりはこんな方法で！
資料などの利用のしかた！
分かったことをまとめるとき！

図2 調べ学習の仕方

方の説明として、図2の5つの項目を設定した。インターネットは、社会科学習の調べ方の一つと

して位置付けている。また、インターネットを活用して調べる前に、キッズgooのホームページ上で、利用するに当たっての情報モラルや検索の仕方等を指導することにした。

(イ) 興味・関心のもたせ方

新しい学力観では、児童生徒の興味・関心を一層重視している。地域の発展に尽くした先人の学習は、過去の人物であるため、児童にとっては、なかなか身近に感じられず興味をもちにくい題材である。そこで、下記のような点に留意して作成した。

- ・ 人物のエピソードの挿入
- ・ 画像、動画、音声の使用
- ・ 「つかむ」段階の課題提示の工夫
- ・ 中心になる資料の画像から他のデータへのリンク
- ・ 操作の説明



図3 石井樋のページ

(ウ) 調べるときの階層化

図3で示した学習プロセスの「つかむ」段階を経て、「調べる」段階までできるようにし、更に詳しく調べられるように資料や関連するサイトにリンクするようにした(図4)。

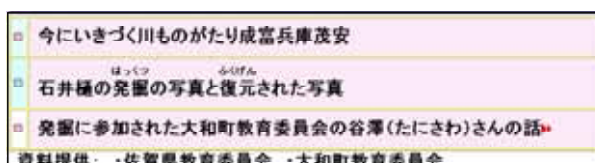


図4 詳しく調べるリンク先

(エ) サイトの利用に際した教師への手引きの整備

教師が、このサイトを利用して実際に授業を行う際に、必要になる左記の図5のようなものを用意した。

はじめに(ガイダンス)
単元計画、指導案、ワークシートなど
教材作成のための手引き
ホームページ作成のための手引き

図5 教師用の手引き

6 研究の実際 (授業を通した実践的研究)

(1) 単元 第4学年「じまんできる先人をさがそう」

(2) 単元計画(全10時間) は検証授業

指導過程	時 数	主 な 学 習 内 容
はじめ	1	Web上での調べ方やインターネットを利用する際のモラルを知る。
つかむ	2	Web提供型コンテンツを活用し成富兵庫茂安について、あらましを調べる。
調べる	3	成富兵庫茂安についてWebなどを活用して詳しく調べる。
	4	インターネットだけでなく他のメディアを利用してもよいことにする。
まとめる	5～6	成富兵庫茂安について、新聞の形式でまとめる。
広げる	7	Web提供型コンテンツなどを基に自分が調べたい先人を決める。〈つかむ〉
	8	調べたい先人について自分で調べる。〈調べる〉
	9～10	調べたことを新聞の形式でまとめる。〈まとめる〉

(3) 本時の目標(第2時)

- ・ 地域の人々の願いに応えて、地域の開発や発展に尽くした成富兵庫茂安の働きや努力に対し興味・関心をもって調べようとする。(社会事象への関心・意欲・態度)
- ・ インターネットなどを使って調べたり、必要な資料を集めたりしながら、成富兵庫茂安の働きについて調べることができる。(観察・資料活用の技能・表現)

(4) 授業記録

主な学習活動	主な児童の反応及び教師の手立て	HPルート
1 成富兵庫茂安クイズをし、本時の課題を知る 成富兵庫茂安は、 「なぜ水の神様といわれるようになったのだろう！」 調べたことをもとに新聞を作ろう 2 成富兵庫茂安について調べる ・いつごろ生まれたのかな ・どんなことをしたのかな ・茂安が行なった主な治水事業は など 3 「石井樋」について調べる 	T 今日は、まず、成富兵庫茂安クイズをしてみましょう。 (教師のパソコンの画面を見せながら説明をする) C むずかしか～ C おもしろか～ 60点やった T 課題を提示した後「わたしたちの佐賀」から成富兵庫茂安のページまでのルートや関連するサイトを簡単に説明する。副読本「わたしたちの佐賀県」も使用し、茂安がどんなことをしたのか概要をつかませるようにする。 T 年表やエピソードは、副読本かWebサイト「今にいきづく川物語成富兵庫茂安」を参考にさせる。 http://www.doboku-imageup.com/contents/nari_index.htm C 1560年に生まれたのか C 成富兵庫茂安は、小さいころあばれんぼうだったんだって C 村人をおもいやるやさしい人だったんだなあ T 課題意識を明確にするために、石井樋の全体写真を見せた後、動画による問題を投げ掛ける。 (象の鼻と天狗の鼻を歩いてる映像) T 主な治水事業の一つである「石井樋」を開発した教材を用いてモデル学習にすることにより、他の治水事業は、子どもたちに主体的に調べさせていくようにする。 T インターネットの操作がよく分からない児童には、巡回をしながら指導する。 T 友達の発表を聞いて、成富兵庫茂安の行った時代背景や主な治水事業から、成富兵庫茂安が、どんな人で、どのような苦労や努力をしたのかをつかませる。 T 石井樋の発掘の写真や発掘に携わった人の話(動画)などを参考にさせる。	トップ ↓ クイズコーナー 郷土の先人 ↓ 成富兵庫茂安 ↓ 石井樋 ↓ リンクされたページへ 石井樋
4 調べたことを基に話し合う ＜話し合いの視点＞ ・作った目的 ・何年くらいかけて作ったか		

・作るときの苦労 ・出来上がってどう変わったか ・どんな人物と思うか	C 子どものころはあばれんぼうだった。 C やさしい人だった。 C すごく偉い人だと思った。 C 石井樋は、佐賀の水不足のために作った。
5 学習を振り返る	T 本時の授業に対する興味・関心の有無や成富兵庫茂安に関して、更に調べたいことについて書かせる。 C とても楽しかった。かめ石について調べたい。 C 楽しかった。他の工事についてもっと調べてみたい。

7 研究の実際（考察）

(1) 興味・関心・意欲の高まりの推移状況

図6は、興味・関心・意欲の高まりの推移状況を表したグラフである。図6を見てみると、「もっと調べたい」「もう少し調べたい」を合わせると、検証～を通して全体の約90%以上という高い割合を示していることが分かる。検証（新聞作り）では、11%の児童が、「あまり調べたくない」「調べたくない」と答えているが、その理由としては、「たくさん調べたから」などの達成的な理由を挙げていた。

図7は、検証における「もっと調べたい理由」をグラフにしたものである。図7を見てみると「調べることが楽しいから」が、3割を超えている。この項目の割合は、検証授業が進むにつれ高くなっていった。また、図7から、全体的に自分の調べたいことが分かり、更に追求したいという理由が多いことが分かる。

以上のことから、Web提供型コンテンツが、導入期の「つかむ段階」、「調べる段階」、「まとめる段階」、「広げる段階」において、児童の興味・関心を高め、意欲を継続させることに効果的だったと言える。

(2) 主体的な学習の高まり

ア 調べ学習に対する意識の推移状況

図8は、調べ学習に対する意識の推移状況をグラフにしたものである。図8から、「よくできた」「だいたいできた」を合わせた割合は、90%を超えていることが分かる。また、「よくできた」の割合が、検証授業が進むにつれて高くなっていることから、進んで調べ学習に取り組もうとしていたことが分かる。その理由と

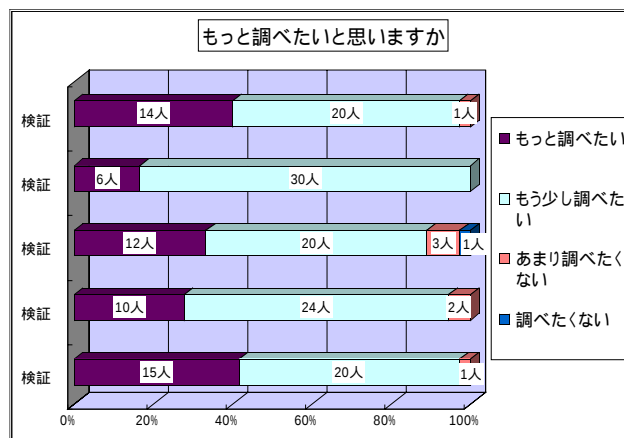


図6 興味・関心・意欲の高まりの推移状況

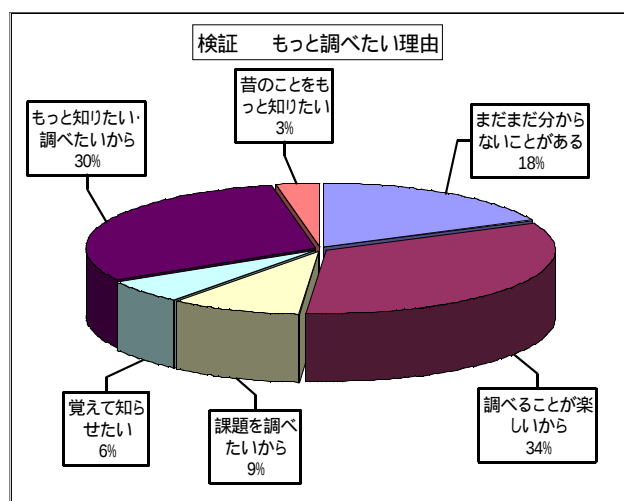


図7 もっと調べたい理由

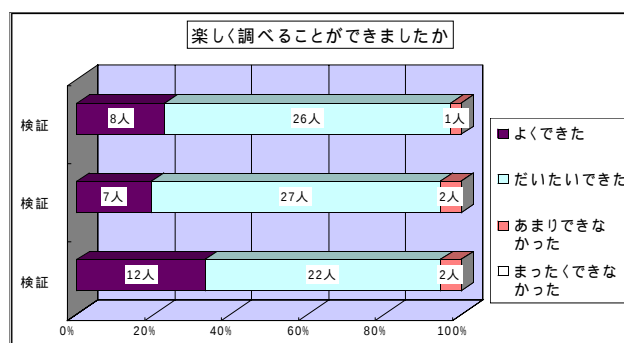


図8 調べ学習に対する意識の推移状況

して、クイズや動画、画像などのコンテンツのよさや調べやすさを理由に挙げている児童が多かった。

イ 調べ方に対する自己評価

図9は、調べ方に対する自己評価の推移状況をグラフにしたものである。図9から、「よく分かる」「だいたい分かる」を合わせた割合が、高かったことが分かる。また「よく分かる」の割合が、検証授業が進むにつれて高まっていることから、調べ学習の仕方が身に付いてきていると考えられる。

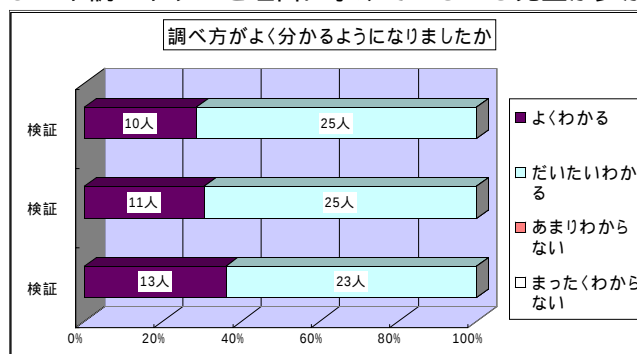


図9 調べ方に対する自己評価

ウ まとめ方に対する意識の推移状況（検証「新聞作り」より）

図10は、まとめ方に対する意識の推移状況をグラフにしたものである。図10から、単元の前半と後半を通して、「よくできた」「だいたいできた」を合わせた割合は95%を超えている。更に「よくできた」の割合が11%ほど伸びていることが分かる。また、新聞を楽しく作ることができた理由に、1回目に比べ2回目の方が時間的に速くできたことを挙げている児童が増えていることが分かった。

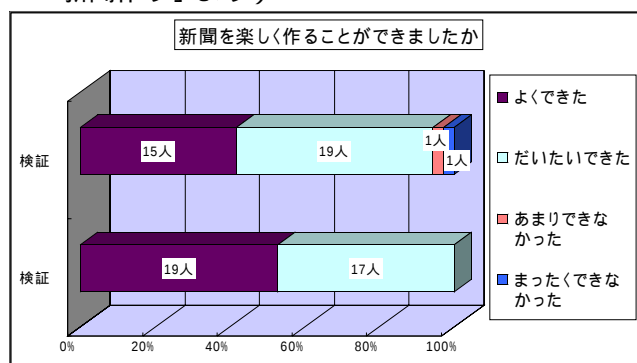


図10 まとめ方に対する意識の推移状況

上記の3点のことから、開発したWeb提供型コンテンツが主体的な学習を高めたことが分かった。また、児童の学習プロセスを考慮し「広げる」活動で同じプロセスを繰り返したことが、調べ方やまとめ方の仕方などの進んで情報を収集・活用する力を身に付けさせることに効果的であったと言える。

8 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

学習プロセスの流れに沿ったWeb提供型コンテンツを整備し、児童がこのコンテンツを利用して調べ学習を行うことにより、「つかむ」「調べる」「まとめる」「広げる」各段階において児童の興味・関心を高め、学習意欲を継続させることに効果的であることが分かった。また、Web提供型コンテンツによる調べ学習や「広げる」活動で同じプロセスを繰り返したことが、調べ方やまとめ方の仕方などの自ら進んで情報を収集・活用する力を身に付けさせることに効果的であることから、開発したWeb提供型コンテンツの有用性を実証することができたと思う。

(2) 今後の課題

- ア 調べ学習における情報収集・活用能力の系統性を考慮した単元計画及びカリキュラムの作成
- イ 「わたしたちの佐賀」を中心とした地域教材を開発するための教師間ネットワークの構築
- ウ 地域の情報を基にした学校間・学級間の交流の活性化（TV会議等）

《引用文献》

- (1) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 社会編』 平成11年 p.3
- (2) 永野和男編著 『これからの情報教育』 2002年 高陵社書店 pp.40-41

《参考文献》

- ・ 『わたしたちの郷土・佐賀の開発に尽くした人 成富兵庫茂安』 1993年 佐賀県教育庁学校教育課